内田　麻理香
（サイエンスライター）

この世界が消えたあとの科学文明のつくりかた
ルイス・ダートネル著、東郷えりか訳
（河出書房新社・2484円）

ワードマップ 批判的思考
楠見孝、道田泰司編（新曜社・2808円）

現代語訳でよむ日本の憲法
柴田元幸訳、木村草太監修
（アルク・1620円）

知や教養に注目することが多かった年だったように思う。情報が氾濫する中、私たちはどう考え行動すれば良いのか。

『この世界が消えたあとの科学文明のつくりかた』は、世界が滅びるというシナリオを仮定し、そこから人々がどのように科学文明を再建するかを描いた書だ。知識を更新しつつ発達する科学の姿が、我々の知を求める態度のお手本になろう。

『批判的思考』は、副題にある通り「21世紀を生きぬくリテラシーの基盤」を探究した一冊。哲学・心理学・科学論などさまざまな角度から検討した本書は、情報に向かう心構えのヒントになる。

『現代語訳でよむ日本の憲法』は憲法英文を訳出した、翻訳者と憲法学者による書。英文と突き合わせると、憲法は人々の意思の集成であり、私たちを国家から守る存在だと再確認できる。憲法こそ必須の教養だ。